

質問・意見とそれに対する回答

No.	質問項目	質問・意見内容	回答
1	資料3～6	・焼却、破碎等、中間貯蔵、埋立て等において、労働者がどこに立ち入り、どのような作業を行うのか、工程に沿って作業ごとの状況を確認する必要がある。(森委員)	●原子力施設の焼却炉での主な作業例(参考) ・日常点検:作業前点検、運転中の巡視点検、作業後点検として、施設内の焼却設備系統全体を目視等により点検。設備近傍で行うが短時間の業務。 ・廃棄物の投入作業:焼却炉上部の廃棄物投入機に廃棄物(20リットルカートンボックスを酢ビシートで覆ったもの)を投入する作業 ・灰の取り出し作業:灰取り出しボックス内に灰を収納するドラム缶をセットし、灰を収納後蓋をし、ドラム缶を取り出す作業。(炉内の負圧管理等によりドラム缶が汚染されないように管理。灰取り出しボックス内からドラム缶を取り出す際にはスミヤ測定を行い、汚染が無いことを確認。)(門馬委員) ●中間処理と最終処分場での作業(資料4-1、4-2参照。環境省) ●中間処理施設における作業内容(資料5参照) ●焼却施設・焼却前施設における粉塵状況(資料6参照。鈴木委員)
2	資料3～6	・焼却、破碎等、中間貯蔵、埋立て等において、粉じん作業を行うときに、最高でどの程度の粉じん濃度があるのか。(松村委員、森委員)	・処理施設での粉じんデータは収集されているはず。JAEAのモデル事業のデータもあるのではないかと。ただし、作業環境測定であり、個人ばく露ではない。(大迫委員) ・除染モデル事業における飯館村での焼却試験においては、主灰及び飛灰の灰取り出し作業時に、空气中放射性物質濃度を測定しているが、ともに検出限界未満。(粉塵データは無し)(門馬委員) ・廃棄物焼却施設における粉じんの発生状況(資料7参照。松村委員)
3	資料3～6	・取り扱う廃棄物で、最も高い放射能濃度はどの程度か。(松村委員)	・上限がどれくらいかはよくわからないが、100万Bq/kg程度のものはある。(環境省) ・大熊町の草木の焼却灰では、数百万Bq/kgのものもあった。(大迫委員) ・除染モデル事業における焼却試験データは以下の通り。 1) 飯館村での焼却試験(固定炉床式、29kg/hr) ・焼却前放射能濃度:24,000～91,000Bq/kg(参考) ・焼却後主灰濃度:500,000～2,000,000Bq/kg ・焼却後飛灰濃度:550,000～2,000,000Bq/kg 2) 大熊町での試験(固定炉床式、49kg/hr) ・焼却前放射能濃度:45,000～723,000Bq/kg(参考) ・焼却後主灰濃度:440,000～2,050,000Bq/kg ・焼却後飛灰濃度:270,000～1,690,000Bq/kg

4		・想定される各作業における放射性物質濃度、中間貯蔵施設等が想定される地域の空間線量率などの情報が可能な限り示されるとよいと考えられる。(森委員)	・除染モデル事業における飯舘村での焼却試験においては、主灰及び飛灰の灰取り出し作業時に、空气中放射性物質濃度を測定しているが、ともに検出限界未満。(門馬委員) ・空間線量率の航空モニタリングの最新データについては、資料8参照。
5		・「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」においては、「屋外作業場での管理区域」という概念が含まれておりますが、これは、屋外において煤じんが非密封で取り扱われる作業があるということでしょうか。(例えば、資料8における「飛灰ホッパーからの灰出し作業」の写真は屋内作業のように見えますが、このような作業を屋外で行う例があるのでしょうか。)(門馬委員)	・屋外において、煤じんが非密封の状態で扱われることが想定されています。(事務局)
6		・用語の定義の確認ですが、「施設内作業には、屋外作業と建屋内(屋内)作業がある」と理解してよろしいでしょうか。この場合、上述したような屋外作業は、施設内の作業に該当するのでしょうか。(対策の検討に当たっての論点1.(3)ウに関連)(門馬委員)	・施設内作業の定義はこれからご検討いただくこととなりますが、現時点では、屋外作業と屋内作業の両方を検討対象としています。